

対話的鑑賞活動の中で資質・能力を育む美術科の授業 —特別支援学校（知的障害教育）高等部における実践—

福島幸太郎 [鹿児島大学教育学部附属特別支援学校]

小久保博幸 [鹿児島大学教育学系（教職大学院）]

Art classes that foster qualities and abilities through interactive appreciation activities:

Practice in a special needs high school for students with intellectual disabilities

FUKUSHIMA Kotaro and KOKUBO Hiroyuki

キーワード：対話、鑑賞活動、資質・能力、見方・感じ方

1. はじめに

情報化やグローバル化の加速度的進展や人工知能（AI）の飛躍的進化といった急激な社会的変化が進む中、こうした社会の変化に主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を発揮し多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に育てていくことを重視し、学習指導要領が改訂された。

新しい学習指導要領では、学校教育が長年その育成を目指してきた「生きる力」を、育みたい資質・能力として「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の大きく三つの柱に整理する（何ができるようになるか）とともに、その資質・能力を踏まえて目標や内容を見直し（何を学ぶか）、生きて働く知識・技能を習得するために必要な「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を行う（どのように学ぶか）ことが求められている。

特別支援学校（知的障害）高等部美術科においては、目標が「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」とし、資質・能力の三つの柱に即した構成で示されたことで、明確化が図られた。

本校高等部の生徒の美術における実態を見てみると、絵や版画、立体などの表現活動において、様々な材料や用具を生かし、楽しみながら制作に取り組む様子が見られる。しかし、鑑賞活動においては、作品を見て感じたことや気付いたことを伝える活動を苦手とする生徒の姿が多く見られるため、今日の教育的動向を踏まえて、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだす、造形的な見方・考え方を働かせながら、鑑賞に関する資質・能力の育成を目指した実践を行うこととした。

2. 実践に当たって

本実践では、以下の3点に取り組むことで、高等部美術科の鑑賞に関する資質・能力の育成を目指すこととした。

2.1. 学習指導要領で整理された資質・能力の三つの柱を基に題材で目指す姿を想定する。

美術科における育成を目指す資質・能力の三つの柱を基に題材における目指す姿を具体的に設定し、達成状況を詳細に把握することができるようにする。

2.2. 生徒の学びの姿を基に授業研究を行い、指導及び支援方法の改善を図る。

授業担当者間で、授業の様子を振り返り、生徒の学んでいた姿や学びにつまずいていた姿を抽出する。それらの情報を基に、指導内容や教材教具、教師の発問、場の設定などの適切性について分析、検討を行い、次時の授業に生かすことができるようにする。

2.3. 題材終了後に指導計画を評価し、次年度の指導計画に反映できるようにする。

実施した題材を教育課程の評価・改善につなげるために題材終了後に授業担当者間で目指す姿や指導計画、学習活動、支援、手立てなどの評価を行い、次年度の授業に生かすことができるようにする。

3. 実践事例 高等部 題材「美術館へ行こう」

3.1. 生徒の実態

本校高等部の生徒たちは、これまでの美術の学習で、参考作品を見て気付いたことを発表したり、制作した自分たちの作品を鑑賞して、意見交換をしたりする活動に取り組んできている。また、ほとんどの生徒が、美術館に行ったことがあり、作品を鑑賞した経験がある。しかし、作品について気付いたことを意見交換する際は、積極的に発表することが難しかったり、「かっこいいから好きです。」や「きれいだから好きです。」等の表面的な感想に留まったりすることがあった。これは、自由に感じたことを伝え合ったり、表現方法や意図など、目に見えない部分を予想したりすることが難しいためであると考えられる。さらに、美術館での鑑賞活動では、一つでも多くの作品を鑑賞することに意識を向けてしまい、作品の前で立ち止まって、じっくり鑑賞して思いを巡らすことは難しい姿が見られた。これは、作品をじっくり鑑賞する経験が少なかったり、作品をどのような視点で鑑賞したらいいのか分からなかったりすることが原因だと考えられる。

3.2. 題材設定の意図

上記の実態を踏まえ、立体作品を中心に展示する美術館で、作品に触れながら鑑賞活動を行う題材「美術館へ行こう」を設定した。実際に作品に触れながら鑑賞活動を行うことで、作品に対するたくさんの気付きがあり、活発な意見交換を行うことができ、その中で美術作品に対する見方や感

じ方を広げることができる。さらに、学校と美術館が連携を図ることで、学芸員から専門的な話を聞くことができ、作者の心情や表現の意図と工夫などの理解にもつなげることができる。これらの経験から得た学びは、今後の表現活動での創意工夫につながったり、美術作品や美術文化への興味・関心につながったりし、豊かな情操を培うために、大きな意義があると考えられる。

3.3. 全体目標

作品について感じたことを伝え合ったり、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えたりする活動を通して、造形の要素や作者の心情、表現の意図と工夫などを理解し、美術作品の見方や感じ方を広げることができる。

3.4. 本題材で目指す姿（資質・能力）

- ・ 作品を構成する、造形の要素（形や色彩、材料や光などの働き、造形的な特徴）を理解する姿 ＜知識・技能＞
- ・ 作品を鑑賞して、造形の要素（形や色彩、材料や光などの働き、造形的な特徴）に気付いたり、作者の心情や表現の意図と工夫を予想したりする姿 ＜思考力・判断力・表現力等＞
- ・ 作品について自分の意見を伝えたり、他者の意見を聞いたりして美術作品の見方を広げる姿 ＜学びに向かう力・人間性等＞

3.5. 題材の指導計画(全8時間)

第一次では、実際に鑑賞活動を行う美術館の所蔵作品が印刷されているアートカード（図1）から、好きな作品を選び、その理由を発表する活動を設定した。その中から、中心的に鑑賞する作品を絞り、アートカードを見て気付いたことや感じたことを意見交換し、ワークシートにまとめるようにした。意見交換をする際は、美術作品の見方や感じ方は正解がなく、様々な意見があつていいことを伝え、活発な意見交換ができるようにした。意見を出すことが難しい生徒には、造形の要素や感情をイラストと文字で示した鑑賞カード（図2）を使用し、その中から意見を選んで発表できるようにした。感触について予想する活動では、やすりや陶器などの表面を触って、ザラザラやつるつるなどの言葉と質感が一致するようにしてから予想するようにした。

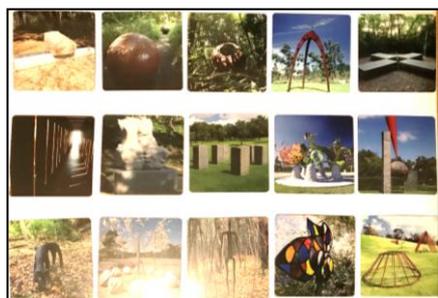


図1 アートカード

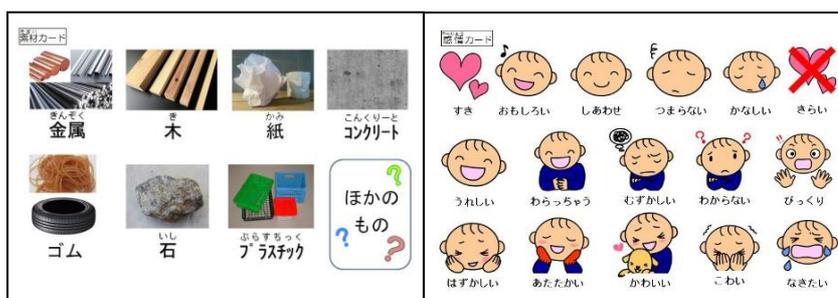


図2 鑑賞カード（例）

第二次では、実際に美術館へ行き、学年ごとに、造形の要素の観点を示したワークシートを使って、第一次で選んだ作品をじっくり鑑賞するようにした。鑑賞の際は、作品を様々な角度から見たり、触ったりするなど、実際に美術館に来たからこそできる活動を設定した。第一次でアートカードを使用して意見をまとめたワークシートと、実際に作品を鑑賞して気付いたことを比較し、自分たちの予想や考えは合っていたのか検証する活動も設定した。美術館での意見交換の際も鑑賞カードを活用し、その中から感じたことや気付いたことを友達に伝えることができるようにした。各学年での鑑賞活動後は、まとめたワークシートの内容を発表し合い、様々な見方や感じ方を共有できるようにした。さらに、自分たちの発表に対して、学芸員の方から専門的な意見をもらうことで、芸術作品に対する見方や感じ方を深めることができるようにした。

3.6. 実際

3.6.1. 第一次の様子

アートカードを見て、好きな作品を選ぶ活動では、楽しみながらじっくりと作品を見比べる様子が見られた。作品を選んだ理由や作品を見て気付いたことを友達に伝える活動では、形や色彩、材料などの造形的な要素をホワイトボードに示すことで、「この部分は赤いね。」や「人間の形をしているね。」など、活発に意見交換する姿が見られた。中心的に鑑賞する作品を絞り、アートカードを見て気付いたことや感じたことを意見交換する活動では、友達と話し合いながら、鑑賞する作品を選び、「周りの木より大きいから、とても大きな作品なんじゃないかな。」や「この部分はガラスでできていると思う。」など、造形の要素について意見を出し合いながらワークシートにまとめる姿が見られた。

3.6.2 授業研究の内容

第一次終了後の授業研究では、学んでいた姿として、生徒たちが活発な意見交換ができていたことが挙げられた。理由としては、「立体作品だから写真でも作品をイメージしやすかったのではないか。」「作品が靴や花などの身近な物をテーマにしている物が多く、意見を言いやすかったのではないか。」との意見が挙げられた。一方で、学びにつまずいていた姿として、意見交換の際、鑑賞カードの内容から、意見を伝える姿は多く見られたが、その内容に捉われ過ぎているのではないかとの意見が挙げられた。そのため、第二次で実際に美術館で鑑賞活動を行う際に、生徒自身の考えを引き出す工夫として、教師の発問の方法や鑑賞カードの提示のタイミングなどを確認した。

3.6.3 第二次の様子

美術館に行き、作品を鑑賞する活動で、生徒たちは実際に作品に触れたり、いろいろな角度から眺めたりして、「アイスクリームのコーンに見える。」や「離れてみたら、ビックリマークに見える。」など、それぞれの生徒が気付いたことを積極的に意見交換する姿が見られた(写真1)。なかなか意見が伝えられない生徒については、教師が「この作品は何でできているのかな。」と発問をしながら



写真1 作品について意見交換する生徒の姿



写真2 友達の発表を聞く生徒の姿

鑑賞カードを提示することで、「金属。鉄。」と答えたり、「この作品を見てどんな気持ちになるかな。」と発問しながら感情の鑑賞カードを提示することで、悩みながら、「あたたかい気持ちとうれしい気持ち。」と伝えたりする姿が見られた。一方で、作品を鑑賞する際に、教師が「作者は、どんな気持ちでこの作品を作ったのかな。」と問い掛けても、作者の心情や表現の意図と工夫を答えることが難しい姿が見られた。しかし、学芸員から、作品についての説明や作者のねらいを聞く活動では、自分たちの考えと一致していることを喜んだり、想像もしていなかった説明に驚いたりする姿が見られ、作者の心情や表現の意図と工夫を知ることにつなげることができた。また、各学年で鑑賞活動のときに出た意見を共有する活動では、同じ作品でも学年によって捉え方が異なる事例に、興味深く発表を聞く姿が見られた（写真2）。

4 実践のまとめ

4.1. 実践の成果

- ・ 学習指導要領で整理された資質・能力の三つの柱を基に、題材で目指す姿を想定したことで、各生徒の美術科の目標の達成状況について詳細に把握することができた。本題材での美術科の目標の達成状況を踏まえて、今後の美術の授業で育てたい資質・能力を考える際の参考にすることができるのではないかと考える。
- ・ 題材における目指す姿を確認し、生徒の学びの姿を基に授業担当者間で授業研究を行うことで資質・能力の育成につながる、具体的な支援策を見いだすことができた。
- ・ 美術館内に多数存在する展示作品の中から、鑑賞する作品を絞り、作品をじっくり見つめる活動を設定することで、芸術作品の見方や感じ方を深めながら意見交換を行うことができた。
- ・ 鑑賞の視点を造形の要素（形や色彩、材料や光などの働き、造形的な特徴）で示したワークシートを活用することで、生徒が造形の要素について理解を深めるとともに、気付いたことを具体的に述べることができた。
- ・ 鑑賞カードは、常に提示するのではなく、生徒の実態に応じて、提示のタイミングを考えながら活用することで、生徒自身の考えを引き出すことができた。
- ・ お互いの意見を尊重し合う環境づくりを意識し、作品について相互に意見を交換する、対話的

な鑑賞活動を設定したことで、生徒たちが、自信をもって作品に対する自分の意見を伝える姿が見られるようになった。

4.2. 実践の課題

- ・ 作品に対する作者の心情や表現の意図、工夫などについては考えることが難しい様子が見られた。理由としては、これまでの学習で、制作の背景まで考える活動がなかったことや、作者や作品についてじっくり調べる機会がなかったことが考えられる。時数調整をして、本題材で取り扱うか、その他の美術の題材で取り扱うことを検討していき、年間指導計画の学習活動に記載していく必要がある。
- ・ 学習指導要領では、表現と鑑賞の指導の関連を図る重要性が示されている。現在本校では、立体の表現を中心とした学習活動が1学期に設定され、立体の鑑賞を中心とした学習活動が2学期に設定されているが、鑑賞を通して理解した造形的な視点を生かして、作品の発想や構想に生かしたり、創意工夫しながら制作したりできるよう、題材配列を検討して二つの学習活動を同時期に実施したり、同一題材内で表現と鑑賞の内容を関連付けたりするなどの工夫が必要である。
- ・ 本題材の作品について感じたことを言葉で伝えたり、他者の言葉を聞いて感じ方を広げたりする学習活動は、言語能力の育成にもつながるものと考えられる。国語科の題材で育成を目指す資質・能力との関連も今後図っていきたい。

5 付記

本報告は、平成29年度から令和元年度にかけて鹿児島大学教育学部附属特別支援学校で行った「育成を目指す資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメント実現に関する研究」の美術科における実践をまとめたものである。

6 参考文献

文部科学省 (2019) 特別支援学校学習指導要領解説 各教科編 (高等部)